Management Club Report

Nov.2010/Vol.95

Monthly Opinion 《正統派自由診療歯科医院》

一旦回復したかに見えた景気もこの1年ほどの間に再び冷え込み、雇用の創出が大きな問題となって民主党政権を揺さぶっています。「少し長い目で見ないと」と同情的に静観していた世論も、不透明な政治資金問題、相次ぐ閣僚の失言問題、稚拙な外交防衛政策と何一つ真っ当に対処できない政府与党には、堪忍袋の緒も切れようかという状況になっています。

しかし、だからと言って自民党の復活を望んでいるようにも思えません。重要課題を脇へ置いて、政府の揚げ足取りばかりに終始する視野の狭さや肚の小ささに、これまた信頼感を持ち得なくなっています。

世の中の閉塞感は重苦しさを増しています。病院や医院に通院しなくてはならない患者が中断してしまうケースが今年になって増大しているという報道が流れると、歯科医院は一層顕著なのではないかと考えてしまいます。

そのような中で、景気動向などにはまったく左右されない独自の考え方と、ピュアな職業観に基づき自由診療経営を貫こうとしている歯科医師たちがいます。

去る10月24日、東京国際フォーラムで開催した会員限定の『ドクターズ・ミーティング／正統派自由診療経営を語る』で、その取り組みと心意気を語った4人のドクターの話を中心に、正統派自由診療歯科医院とはどのようなものかをまとめてみました。

1

悪化する経済環境下の歯科経営をどう考えるか

二大政党政治に寒気を感じる

やることなすこと下手ばかり打っている政権与党の民主党を、今こそ攻め時とばかり、その下手さの追求に血眼となっているかつてダメ与党だった自民党。この両党を中心にごめいている最近の国会を見ていると寒気を感じてしまいます。

それは、二大政党政治とはより良いものを相互に交代しながら積み上げて行く政治ではなく、悪いところを探し出しお互いに崩し合う政治を言うのだとわかったからです。

しかもその崩し合いの仕方に品性というものをまったく感じるできないと知った時、本当にこの人たちに社会のリーダーシップを委ねていることに寒気を感じたのです。

与党も与党なら、野党も野党

政治家としての実績もさしてない口だけ達者な若い女性議員を質問者に立てる自民党の料簡とは一体どのようなものなのでしょう。事業仕分けの急先鋒で一躍その名を高めた民主党の女性議員の向うを張ろうというのでしょうか。一応の美形と元アナウン